

「環境に配慮したライフスタイルの推進」に係る課題と検討の方向性（案）

- 家庭部門のCO 排出量削減に当たり、情報の内容、伝え方(届く・伝わる工夫)、取組の広がり(継続・波及・地域連携)に関する課題が明らかになった。
- これらの課題を踏まえ、区民が省エネ行動等に踏み出しやすくなるように、各種事業の見直し等について検討が必要である。

2 明らかになった課題（整理）

見える化の改善が必要（情報の内容）

- ✓ CO や効果が生活の実感につながりにくい
- ✓ 「自分はどのくらい?」「どこを改善?」が把握しづらい。
- ✓ 提示情報が抽象的・量が多く、行動につなげて考えにくい。
- ✓ 世帯タイプや住まい方の違いが十分反映されておらず改善のポイントがつかみにくい。

周知・啓発方法の整理が必要（伝え方）

- ✓ 区報や冊子などは、届く層に偏りがあり、若者・子育て層・無関心層に届きにくい。
- ✓ SNS・HP・チラシなど、媒体の役割分担が整理されていない。
- ✓ 情報は届いても「読んで終わり」で、行動につなげにくい。
- ✓ 気持ちに訴えるだけでは行動につなげにくく、行動に移しやすくなる工夫が必要。

取組が広がりにくい状況の改善が必要（取組の広がり）

- ✓ 学校は多忙で、新たな取組を継続的に組み込みにくい。
- ✓ 出前授業やイベントが単発で終わり、継続や家庭への広がりが弱い。
- ✓ 地域の団体や専門家に関する情報が分かりにくく、つながりにくい。

参考 10期中に改善・工夫した点

- ✓ エコライフチェックの見直し・・・デジタル化+取組に対する効果の見える化、季節に応じたバリエーション提供
- ✓ 情報発信の工夫・・・ホームページでの発信強化（ZEH、家庭の省エネ・断熱に関する情報）など

3 次期に向けた検討の方向性（案）

3つの方向性は、区民が省エネ行動に踏み出しやすくなる「きっかけ」や「条件」を整える視点として整理したもの。

方向性 見える化する内容の工夫

- ・自分の家庭の状況や改善のポイントがわかりやすく伝わるよう、情報の整理を検討
- ・日常の行動とCO 削減効果の関係が理解しやすいよう、情報の示し方を検討
- ・区民が行動の効果を手軽に振り返れるような情報の示し方を検討

方向性 周知・啓発方法の工夫

- ・区報、SNS、HP、チラシなど媒体の特徴や、区民の属性・関心度に応じた伝え方を検討
- ・行動に踏み出しやすくなる、身近なヒントの工夫（例：今日できる1つの行動提示 など）を検討

方向性 取組の広がりを支える方法の工夫

- ・子どもが継続的に学べる方法（学校負担を増やさない形）を検討
- ・子どもを通じて家庭にも広がるような行動提案を検討
- ・地域や学校などがつながりやすくなるよう、情報整理や段取りの工夫を検討



行動に踏み出しやすくなる状態



区民の「行動変容」の促進